

宮城大学 後援会報

Vol.62

発行日
令和6年2月29日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381
編集
宮城大学後援会事務局



「そこま
で言っ
て委員
会N P」
にコメン
テーター
として出
演される

宮城大学後援会では、令和5年
度後援会主催事業として昨年11
月26日に宮城大学大和キャンパ
ス講堂にて「講演会」を開催しま
した。
新型コロナウイルス感染症が
5類に移行となり、様々な制限が
緩和されての開催となった今講
演会は、会員の皆様をはじめ、日
頃よりお世話になっております
近隣住民の方も含め、約500名
の参加があり、会場はほぼ満席、
大盛況となりました。
今回は、作家でありジャーナリ
ストの門田隆将氏を講師にお迎
えしました。門田隆将氏は元週
刊新潮のデスクをつとめ、独立
後はノンフィクション作家とし
て数多くの作品を発表されてお
ります。
また、読
売テレビ
「そこま
で言っ
て委員
会N P」
にコメン
テーター
として出
演される

主催事業 「門田隆将氏講演会」 歴史の岐路に立つ日本 「私たちは今、何をすべきか」 ノンフィクション作家の講演を聴いて

後援会理事 大坊友寿



など幅広
くご活躍
されてお
ります。
門田氏は
「その場
に身を置
け」の言葉
を念頭に
置き執筆
や取材を
行なっているようで、手掛けるノ
ンフィクション作品の特徴は場
面描写の連続であると講演のな
かで話しておりました。
今回、門田氏には『歴史の岐路
に立つ日本』を題材として、何を
すべきか』を題として、講演い
ただきました。
「やっとな宮城大学に来ることが
出来ました。大階段に感激しそ
う写真撮りましたよ。」「学生
達はとても良い環境で勉強でき
ていますね。」と和やかな雰囲気
の中、講演が始まりました。
「今の時代はSNSの時代にな
り環境が良くなっています。とい
うのは、以前はマスコミが情報を
独占していたため、そこで加工さ
れたニュースに触れるだけだっ



た。しかし、イ
ンターネットが
確立されSNS
が発達し情報が
民主化されてき
た。これは国民全員が情報を発す
るツールを得る事ができるよう
になったということなんです。」
なるほど。「今回は主に『中国問
題についてお話しさせていただ
きます』と続けられ、『今、東京で
はどのような事が起こっている
のか？日本では？世界では何が
起きているのか？真の日中友好
とは？』会場全体が門田ワールド
に吸い込まれていきました。講
演中、ご自身の著書を引き合い
に出される場面もあり、「私の公
演はよく『自分の著書の宣伝をす
るね』と言われることが多いん
です。」と冗談も混じり会場からは
笑いも起きていました。講演会も
終盤に差し掛かると、ここ数年話
題になっている『台湾有事』の話
へと。少し前までは、この時代に
戦争なんておきるわけがないと
思っていました。ロシアによる
ウクライナ侵攻があったり、ハマ
スによるイスラエルへの攻撃と
思いもよらない事が世界では連
続して起こっており、台湾有事も

門田さんには、後援会お礼品定番の
本学坪沼農場で収穫した新米、日本
酒「大学生の純米大吟醸」と、卒業生
が営んでいる「結城果樹園のりんご
ジュース」を
贈りました。



写真撮影 写真サークルFLASH

現実味を帯びてきたように思
います。ここで日本が自分の国を守
るために必要な門田私案も公開
されました。終演時間が迫って
いましたが、「皆さんに是非お見せ
したい」と現在中国で出回ってい
る動画が映し出されました。なん
と「中国の東風41型核ミサイルな
ら7発で日本を地上から消すこ
とができる」という驚きの内容で
した。しかもこの動画が中国版の
SNSで喝采を浴びているとい
う事でさらに驚きました。ここで
時間となり、あつという間に講演
終了の時間となりました。
今回の演題通り、私たちは今、
何をすべきか、考えさせられる貴
重な時間となりました。
講演会後のアンケートでは、
『とてもよかった』『ぜひまた参
加したいです』『今後の企画にも
期待しています』との意見を沢山
頂きました。また、改善点の指摘
がいくつかありましたので、次回
の開催に活かしていきたいと思
います。
会員の皆様におかれましては、
引き続きご理解とご協力を賜り
ますようお願い申し上げます。

記事一覧

2面 ● 太白キャンパス大学祭の報告
3面 ● 大和キャンパス大学祭の報告
4面 ● 意見交換会報告 / 学生・大学支援事業報告
5面～8面 ● 平成30年度～令和5年度のあゆみ(25周年記念冊子)

9面 ● コンペケーションディ「秋」/ キャリア開発支援の報告
10面 ● 学生の課外活動の紹介(演劇集団Arco iris / サークル連絡会大和)
11面 ● シリーズ コラム / 絆
12面 ● 教員からの一言 / お知らせ(後援会・大学) / お問合せ先

「宮城大学太白キャンパス大学祭」を終えて

太白キャンパス大学祭実行委員長
食産業学群生物生産学類 2年 森 尚之

11月4日、5日の2日間にわたり、太白キャンパスにて大学祭を開催いたしました。1日のみ、学内関係者のみで開催した昨年度に比べ、地域の方々と交えた活気溢れる学祭となりました。カレー、ハンバーガー、焼きそば、豚串、餃子、チーズボール、野菜販売、その他様々な食品を扱う店舗が勢揃いしました。ステージイベントでは、「クロちゃん」様、「ワンワンニャンニャン菊地」様のお二方によるトークライブをはじめ、アカペラサークルやダンスサークルによるパフォーマンスなどが行われました。会場となったのは、メモリアルホールという普段私たちが講義を受けている場所ですが、それを忘れるほどのライブ会場らしい雰囲気となりました。



お笑いトークライブ

店舗は、サークルや研究室などの団体によって出店されました。調理方法や販売方法、仕事の割り振りなど、苦労しながらも試行錯誤する、学生の生き生きとした表情が見られました。会場には、想像以上に多くの地域の方々、また子供たちも来てくださりました。学生が自分の商品を必死にアピールし、それをお客さんが嬉しそうに購入する様子や、小学生の子供たちが何を買うか迷いながら歩き回り、大学生と楽しそうに話す様子などを見て、私は非常に嬉しく感じました。また、私がキャンパス内を歩いていると、実験用の植物を栽培している



ヨーヨー釣り

ビニールハウスなどを興味津々にご覧になっていた方がおられました。その方は、「普段大学に入ることなんてないから、いろんな設備を見るのが楽しいね」とおっしゃっていました。毎日通う私にとっては、慣れてし

まった大学の設備ですが、地域の方からすると新鮮なんだと、はっとした気分でした。

私たち実行委員は、5月に結成し、半年にわたって計画、準備をしました。昨年とは開催規模が異なるため、一から考えなければなら

ないことも多く、大変苦労しました。

業者とのやり取りやお金の管理、食品の衛生管理など、責任を伴うことも多々ありましたが、ほんの少し社会人に必要なことを学べたような気がします。実行委員の仕事を通して、関わりのなかった学生同士に繋がりができ、達成感を共有することができました。やはり、一人で事を成すというのは難しく、それぞれの個性が生かされ組み合わせることで、初めて大きなことが成せるということを身に染みて感じました。

今後も、宮城大学の学生が様々な場面で自主的な活動を行うことができると思いますが、温かく見守っていただければ幸いです。



二郎系ラーメン



看板製作の様子



実行委員幹部メンバー

MYU Fes'23 Make Your "Utopia"

大和キャンパス大学祭実行委員長
事業構想学群事業プランニング学類 2年 板垣 柊汰

2023年度宮城大学大和キャンパス大学祭実行委員長を務めました、板垣柊汰です。

まず、大学祭に貢献してくださいました協賛企業様、大学、後援会の皆様の多くの支えのもと成功に導けたこと、本当にうれしく思います。この場を借りて御礼申し上げます。

また、この2日間の大学祭のために尽力してくれた幹部をはじめ、実行委員のみんなには感謝してもしきれないほどです。



入退場ゲート

思い返すと4年ぶりの一般公開に挑んだ私たち実行委員は始まりから終わりまでいくつもの大きな障壁に直面していました。規模拡大により跳ね上がる予算、露店や各企画の増加、来場した一般客の対応。何もかもが去年とは違い、多忙な日々でした。イベントごとにトラブルは付き物なののでしょうか、当日は万全と思っていた準備でも多くのトラブルが発生しました。学校のブレーカーが落ちてしまったり、急遽大幅なステージスケジュールの変更が発生したり、怪我の緊急事態が発生したり。ある意味充実していて濃すぎた1年だったなと今では思い出に残っています。

ひとつ、私が大学祭実行委員会の代表を務め、実感したことがあります。それは一つの組織に所属するみなに報連相を徹底することの大切さです。組織の中で認識

のずれが生じていればその組織が掲げる1つの目的が達成できるはずがありません。実行委員を信じて報告・連絡・相談をし、仕事を任せること。自分ひとり作っている大学祭ではなく、

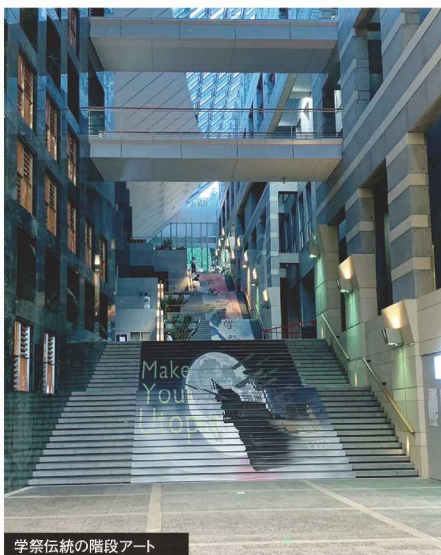
実行委員みんなで作っている大学祭であることをわすれないようにと、2024年度大学祭を担う幹部たちに教訓を残しました。



共に頑張ってきた幹部たち

大学祭が無事幕を閉じた頃、たくさんの学生やお客さんから「楽しかった」という声が聞けました。そのさりげない一言が私にとっては本当に嬉しく、その時初めて、大学祭に関わった実行委員、出演者、お客さんのみんなに「楽しかった」と思ってもらうために1年間頑張ってきたのだなと気づくことができました。実際私が一番楽しかったです。

0から1に大学祭の伝統を復活してくださった先輩方2022年度、1から50に一般公開の土台をつくった私たち2023年度。これから、50から100へとさらに盛り上げていく2024年度と今後の宮城大学大学祭をどうぞよろしく願い致します。



学祭伝統の階段アート



大盛況のステージ



大学祭実行委員会 Fesっ子たち

25周年記念事業

25周年を迎えた後援会。
20周年記念誌発刊から約6年が経ちました。
その間の活動を想い起こし紹介します。

意見交換会を実施

12月の平日の夜、学生団体の代表16名とスチューデントサービスセンター（以下、SSC）及び学生支援部門の教職員、そして学生の父母保証人代表である後援会役員が集まり懇談しました。

冒頭、SSCからは、「自由に、活発に、そして責任ある行動で課外活動を行ってほしい。」と、後援会からは、「課外活動で支援してほしいことや学生生活で不自由に思っていることが聞きたい。」とあいさつがありました。

学生からは、サークル活動をする上で施設の整備要望や問題解決の相談、そして活動費の支援依頼があり、新型コロナウイルス感染症が5類に移行された5月以降、課外活動がより活発になり、やっと思い描いていた大学生生活を満喫しようと奮闘している様子が伺えました。

また、大和キャンパスと太白キャンパスをZoomで繋ぎ、同日開催とした今回の懇談は、キャンパスが異なる学生たちが学生生活のことについて話し合う機会を作ることができました。

参加した学生からは、「大和と太白が交流できる大学祭にしたい」「大学祭で農作物の物販をしたい」「新しいサークルを立ち上げた」「体育館を使用したいサークルが増えた」「音楽イベントができるスペースを整備してほしい」など、要望や提案があふれていました。

後援会では、サークルの活動費助成のほかに、サークル活動場所の設備や学生の福利厚生について大学と協力しながら支援できるように、今後も学生との対話を続けたいと考えております。



学生・大学支援事業

令和5年度、コロナ禍で学生活動の支援が十分でなかった3年間を振り返り、学生の福利厚生や大学の施設整備を支援しようと、委員会が立ち上げられました。

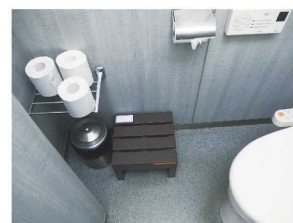
学生を第一に考え学生生活が豊かになる提案を教職員や後援会の役員から募り、多くの提案が寄せられ、委員会では、支援するにふさわしいものかどうか協議を重ね、後援会理事会で支援を決定して参りました。

これまで、「学生共用キッチンのリニューアル(*)」「サークル棟の和室畳表替え(*)」「太白キャンパス」や「3F中庭の美化とくつろぎ空間の創出(*)」「池前のガーデンファニチャーの更新(**)」「洋式トイレへの荷物置き台設置」(大和キャンパス)に支援を決め、12月には宮城大学生生活協同組合の協力により「学食メニュー全品半額DAY」(両キャンパス)を開催しました。

引き続き、学生生活に有意義となる提案に今後も支援できるよう協議して参ります。



学食メニュー全品半額DAY(太白キャンパス)



荷物置き台設置(大和キャンパス)



学食メニュー全品半額DAY(大和キャンパス)

(*)は令和6年3月完了予定。(**)は令和6年5月完了予定

宮城大学後援会25周年記念冊子 平成30(2018)年度～令和5(2023)年度のあゆみ

■ 平成30(2018)年度 第10代会長 武田 篤彦

後援会主催事業「MYU サポートーズデイ」開催 大学を肌で感じた有意義な時間(6月)



▲食産業学群懇談会では研究成果の「豚しゃぶ」の試食が提供された



▲先生方と交流する会員



▲座談会形式で行われた看護の懇談会
保護者向けキャリア教育セミナー、就職状況の説明、先生方との交流会など盛り沢山の内容で開催しました



▲先生方と交流する会員

宮城大学後援会「第1回終身会員の集い」開催(2月)



終身会員制度発足20年を迎え初の開催となり、懐かしい方々と親交を深める機会となりました

大和キャンパス 「ディスカバリー・コモンズ」整備 図書館をリニューアル



学生一人ひとりの学びの空間を確保するとともに学生達がディスカッションする場も提供

後援会による 環境整備支援 大和キャンパス



「スチューデント・コモンズ」の整備にあわせ、後援会から秋田木工の曲木家具を寄贈しました

後援会役員と学生代表が意見交換 学生に寄り添う支援(10月)



▲それぞれのキャンパスで行われた意見交換会(左：大和キャンパス、右：太白キャンパス)
学生生活をサポートするため、後援会・教職員とともに学生の意見・要望を聞きました

■ 令和元(2019)年度 第11代会長 佐藤 功太郎

後援会主催事業「MYUサポートーズデイ」開催 見て、聴いて、知ることができた時間(6月)



▲キャンパスツアーで研究室へ(太白)



▲太白キャンパスの懇談会会場



▲学生による学類紹介(事業構想)



▲模擬講義「地域における看護について」(看護)
模擬講義や就職状況説明・対策のほか、希望者に対しては個別相談会も実施しました

宮城大学後援会「第2回終身会員の集い」開催(2月)



来賓の川上伸昭理事長兼学長(当時)から大学の近況を紹介して頂き、懐かしい方々と親交を深めました

着々と進むコモンズ整備



▲最先端の技術を体験できる「データ&メディアコモンズ」(大和)



▲「ディスカバリー・コモンズ」(太白) 正面奥には図書館
現代の若者の感性にマッチするような内装とし、新しい時代の学びの雰囲気でもたされた空間を提供

キャリア教育・就職対策支援(2019年度実績)

国家試験対策・養護教諭試験対策支援

看護学群(部)には国家試験合格率及び養護教諭試験合格率向上のため、主に4年次生を対象に国家試験等に向けた学習会を5月～1月にかけて行う開講費を助成しています。
国家試験合格に向けて、模試解説会や試験対策講座には延べ681人が参加しました。

学内合同企業研究セミナー開催支援

学内を会場として開催する合同企業研究セミナー開催費を助成しています。
合同企業研究セミナーでは80の企業・団体様にご参加いただき、学生は目指している業界や企業様の説明に耳を傾けながら、丁寧にメモを取っていました。

エントリーシート添削支援、 自己分析・適職発見プログラム支援

事業構想学群、食産業学群には、就職活動に向けた準備促進のため、3年次生を対象にエントリーシート添削支援、自己分析・適職発見検査の実施費用を助成しています。
6月開催の自己分析・適職発見プログラムには125人が受検、11月開催のエントリーシート添削支援には136人が参加しました。



▲宮城大学体育館アリーナで開催された「合同業界研究セミナー」(2019.12)

毎年、後援会ではキャリア教育や就職支援の講座等の一部を「キャリア開発支援助成」としてサポートしています

太白キャンパス「スチューデント commons」整備



▲カフェゾーンの大学整備品



▲リラックスゾーン



▲セルフスタディールーム

学生が主体的に学ぶ空間として4ブロックに分け整備



▲グループスタディールーム



commons整備にあわせ後援会から登米市産クリ材を使用したカウンターテーブルとイスを寄贈しました



大学における感染予防対策の様子を一部ご紹介



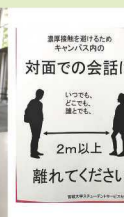
▲AI検温システム



▲手指消毒



▲学生証を読み取り入退館を記録



▲学内の周知ポスター



ソーシャルディスタンスを確保するため座席数の減、着席不可の場所には×印

新型コロナウイルス感染防止対策として学生が安心して授業を受けられる環境を整備

大和キャンパスデザイン研究棟が完成(6月)



様々なデザイン分野の能力を養成し、教員と学生がともに研究に集中できる新たな環境として整備

後援会主催事業「MYUサポーターズデイ」オンライン会員交流イベント開催

コロナ禍の大学・学生・就職の「今」を知る(11月)



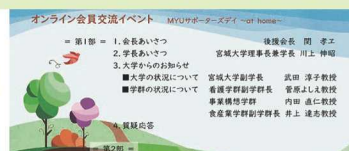
▲川上学長のあいさつ



▲関会長のあいさつ



▲大学の状況について説明する武田副学長



▲看護学群の後期授業・実習の様子を説明する菅原教授



▲就職状況を説明する事業構想学群内田教授



▲模擬講義を配信の中田教授



▲感染防止対策について説明する食産業学群 井上教授



入学支援事業



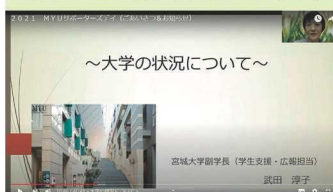
毎年4月、新入生に大学のシンボルマークを模ったバッジを贈っています

新型コロナウイルス感染防止のためYouTubeライブ配信にて実施し、会員のみならず事前までに頂いていた質問に対して大学側から回答して頂きました

令和3(2021)年度 会長 関孝エ

後援会主催事業「MYUサポーターズデイ」開催

学群ごとの動画配信により、大学や学群の状況をお知らせ(9月)



▲大学の感染症対策、授業、学生生活について田邊副学長が説明されています



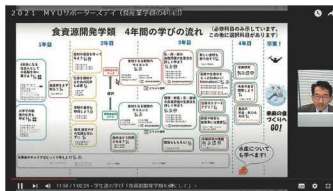
▲事業構想学とは何か、学び・研究のことについて、そして2011→2021 DECADEのチャレンジについて中田学群長が講義形式で説明されました



▲就職状況と今後のキャリア形成について説明する田邊副学長・インターンシップセンター長



▲看護学群からは4年間の教育課程、キャリア開発支援や学生ワーキンググループの学生支援について齊藤教授、竹本准教授、三上准教授が説明されました



▲食産業学群の学生達の4年間の学び、進路支援などについて、井上教授と須田教授が説明されました

コロナ禍における学生の修学状況・サークル活動



感染防止対策を行いながら、地域フィールドワークとして地域課題の発見とその解決に取り組む様子



▲2019年5月の東北地区2部リーグ昇格のとき



▲高齢者疑似体験をしながら食事で介助を受ける経験



▲天体望遠鏡 活動の楽しみが増えます

後援会が助成した天体望遠鏡で月食観測(宇宙・地球生命研究部「Polaris」)



大幅に活動が制限された中でも練習を重ねて宮城県選手権に出場(ソフトテニス部)



病院や施設等で学べる機会が限定される中でも看護学実習に取り組む様子

大和キャンパス大学祭 2021.10.9(SAT)
「MYU FES'21 ~A Whole MYU World~」

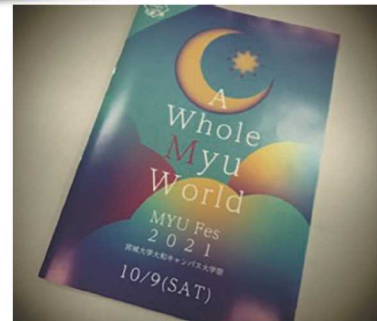
太白キャンパス大学祭 中止を決めた2021年



MYU FES'21 ~A Whole MYU World~のフラッグと実行委員会のみんな



多くの協賛をいただき開催することができました。実行委員幹部



MYU FES'21 ~A Whole MYU World~ パンフレット

毎年、後援会では大学祭での各種費用(パンフレット制作費用、ステージ設営費用、打ち上げ花火費用など)を助成していますが、この年はオンライン開催費用も助成しました



モルカー 74



チャムベ



舞台袖で音全般のサポートを行うLECのメンバー

感染防止対策を徹底して実施しました

令和4(2022)年度 第13代会長 小林 英樹

後援会主催事業「MYUサポーターズデイ」開催
学生の発表に感激し、就活のサポート方法を学んだ(6月)



▲グローバル・commons(大和)



▲実験室(太白)

大和キャンパス学びの場「スキルス・ラボ」開設
リアルな看護実践を学修する場(10月)



リアルな臨床環境で実践的な能力を養うために、高機能シミュレーターを活用しての各種トレーニングを学修する場を整備



▲学生発表(大和)



▲学生発表(太白)

マスク着用、手指消毒、座席指定など新型コロナ感染防止対策をしたうえで3年ぶりの対面開催となりました

宮城大学後援会「第3回終身会員の集い」開催(7月)

3年ぶりの開催となり、宮城大学後援会への想いを繋ぎました



大和キャンパス大学祭 2022.10.1(SAT)、2(SUN)
「MYU FES'22 ~大正ロマン~」

太白キャンパス大学祭 2022.11.5(SAT)
「ゼロ祭ーみんなでゼロから作る大学祭ー」



新たな歴史をつかった学祭実行委員会



みんなで見た最高の花火



ステージも盛り上がりました



美味しいご焼きを作りました



大階段アート



天使のワッフル



大人気でした



コロケはあっという間に完売しました

コロナ禍の様々な困難を乗り越え感染防止対策をしながら学内対面で開催しました

3年ぶり、1~3年生にとっては初の大学祭開催となり、コロナ禍でも大盛況となりました

令和5(2023)年度 第14代会長 大野 健一

後援会主催事業「MYUサポーターズデイ」開催
学生生活・教育環境・就活サポートが見聞できた日(6月)



看護(大和)

事業構想(大和)



食産業(太白)



太白キャンパスでは学生たちが酒造メーカーと共同開発した「大学生の純吟醸酒」と梅ワイン「愛蔵(まなこ)」も当日販売



ナースングラボ(大和)



温室ハウス(太白)

新型コロナ感染防止に努めながらも、以前と同じような形で、教職員や会員同士の歓談も行えました

太白キャンパス「データ&メディアcommons」完成



デジタルガーデン(全景)

デジタルラーニング

サポートオフィス

デジタルガーデン(個人集中作業スペース)

デジタルガーデン(PCサポート)

「ディスカバリー」、「グローバル」、「スチューデント」の各commonsと今回の「データ&メディアcommons」の整備により、太白キャンパスでの一連のcommons整備は完了

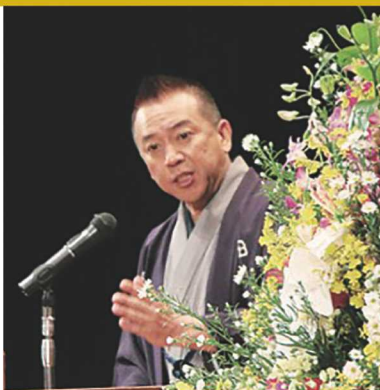
25周年記念事業 学生移動用バスの購入支援

移動が伴う学修などに使用するバスの更新費用を助成し、バスには学生から募集し、選考したデザインを施します。



[Now Printing]

講演会でお招きした方々



平成30(2018)年

林家たい平氏講演会
まずは一人を喜ばせること



令和元(2019)年

結城登美雄氏
講演会&パネルディスカッション
「命をつなぐ」さまざまな連携から



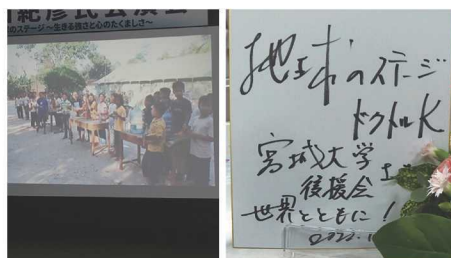
令和3(2021)年

有森裕子氏講演会
夢はかなう～あきらめない心をもって



令和4(2022)年

桑山紀彦氏公演会
生きる強さと心のたくましさ
世界の子供たちからのメッセージ



令和5(2023)年

門田隆将氏講演会
歴史の岐路に立つ日本
～私たちは今、何をすべきか



編集後記

会員の皆様、いつも温かいご支援ありがとうございます。皆様の長年のご厚意により、後援会は更なる進化を遂げ、絆を深めてまいりました。25周年を迎えるにあたり、大学へのバスの購入支援と本広報誌25周年記念版の制作という二本柱を掲げ、25周年事業検討委員会のメンバーと共に約2年間活動してまいりました。今号では、学生の輝かしい活躍や先生方のサポート、学内での様々なイベント、講演会についてご紹介させていただきました。ページ数の関係で全てをご紹介できませんが、25年の歩みの記録として、30周年への更なる歩みを進める一助となれば幸いです。改めて、皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

記念事業検討委員会委員長 関 孝工

記念事業検討委員会

委員 遠藤美千代 大野健一 高橋明子 高橋おかり 田口恵 宮永紀子 吉田和美

1年次生を対象とした学校行事である「秋のコンボケーションデイ」が9月22日に太白キャンパスにおいて開催されました。コンボケーションデイは、大学の3つの学群の学生が所属を超えて交流することで、宮城大学の学生としての一体感を高め、相互理解や仲間づくりのきっかけとなることを期待するものです。

秋のコンボケーションデイでは、食の視点で多様性を考えることをテーマに、以下の3つのアクティビティが行われました。

①太白キャンパス・ヒント・クエスト

指示書に書かれたヒントを頼りに太白キャンパスの構内をめぐりました。太白キャンパスでは、様々な実験機器を備えた実験室や植物の栽培施設、水産動物の陸上養殖技術の開発を行っている水産実験棟などを保有しています。ゲームを通じてそれらを見学することで、大和キャンパスから参加した学生が食産業学群の学びの一端に触れる機会となりました。

②ローカル・クイズ・チャレンジ

宮城の「食」を知る機会として、「仙台せり」や蔵王名産の「つるむらさき」など県内各地で栽培される農産物のほか、仙台牛のルーツといった畜産物に関するクイズ、赤貝やホッキ貝といったブランド海産物に関する問題にチャレンジしました。また、宮城県内の市町村の特徴や歴史をテーマにした出題もあり、大学の所在地である宮城について親しみを持ってもらう機会となりました。

③フードイノベーション・ワークショップ

大学生協のカフェテリアの新メニューを開発するという課題にワークショップ形式で取り組みました。単に新メニューを考えるのではなく、途中でアレルギー食やハラル食といった追加の条件が課され、食の多様性を考える機会としました。メニューの食材を入れ替えたり調理法を再検討したりと、もう一工夫をチームで話し合う中で、異なる専門分野の学生のそれぞれの視点やアプローチを知ることができました。

参加した学生は、所属学群以外の学生と交流できたことや、地域のことを知ることができたことがよかったと感想を持っていました。また、チームで協力して課題に取り組んだことや、自分の考えを発表したことに自信を持った学生もいました。異なる学群の学生と交流することで、自分自身や自分の専門分野を客観的に見つめ直す機会となったようです。他の学群の学生と意見交換したり、異なる専門分野のアプローチを学んだりすることで、自分の専門分野の位置づけや特徴を再評価するきっかけとなりました。また、異なるバックグラウンドを持つ学生との交流を通して、自己理解の深化や自己成長につながったことも成果の一つであったと考えます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、大学でも対面コミュニケーションが徐々に回復しつつあります。宮城大学では、今後も、このような対面によるイベントを積極的に開催し、学生が宮城大学の一員として成長していくことを応援していきたいと考えています。

太白事務室教務・学生支援グループ



クイズ。正解できた？



ワークショップ中。多角的視点で。



成果発表。

Ⅱ 報告Ⅱ

キャリア開発事業支援

12月6日(水)、大和キャンパスにて合同業界研究セミナーを実施しました。

このセミナーは、既に就職活動を開始している学生や、将来のことをこれから本格的に考えようとしている学生に、「こういう業界・仕事があるのか」というイメージを持つてもらい、自身のキャリア形成・就職活動に役立ててもらうための学内イベントです。

宮城県内をはじめ、東京・関東圏から、各業界を代表する79の企業・団体の人事担当者や本学OB・OGの皆様にお越しいただき、学生に対して各業界の事業内容や働きがい等についてお話しいただきました。

事業構想学群及び食産業学群の学生293名が参加し、参加した学生からは、「企業の方から直接話を聞くことができてよかった」「これまで関心を持っていなかった業界のことを知ることができた」といった声が聞かれました。

この他にも、看護学群の国家試験対策、事業構想学群のエントリシート添削、食産業学群の自己分析・適職発見プログラムを、後援会からのご支援により実施いたしました。

引き続き、本学のキャリア教育のさらなる充実に向け取り組んでまいりますので、変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

企画・入試課
企画・広報グループ



舞台を作る。表現に触れる。

演劇集団 Arco iris 代表
事業構想学群価値創造デザイン学類 3年 小西 奏太



本サークルは公演を中心に演劇に関する活動を行うサークルである。2023年度は計10名のメンバーで活動を行った。

サークルとして最も力を入れたのは、9月に行われたとうほく学生演劇祭での演劇公演だ。コロナ禍で活動が途切れ外部での「劇団」としての活動経験が無い中、大会に飛び込み必死に稽古を重ねて作った劇は忘れることのできないものである。結果は準大賞と演出賞を受賞し、また演劇団体同士の公演鑑賞・交流の貴重な場となった。大会への参加を主導しサークル全体をまとめあげた人、経験者として他メンバーを支えた人、経験は浅くとも積極的に活動に参加し大きな成長を見せた人……。互いに触発され良い影響を及ぼし合う非常に有意義な機会であり、学生だからこそ出せる「熱さ」を持った舞台だった。ここで出会いや経験をきっかけに新たな演劇活動に参加しているメンバーもいる。



とうほく学生演劇祭2023より、舞台上の様子

学内での活動も頻度・規模ともに少しずつ増えており、6月には学内に単独の春公演を、10月には大学祭での演劇公演を行った。大学祭は四年ぶりの一般公開ということで子供から学生、大人まで幅広い年代の方に来ていただく貴重な機会となり、年代問わず「面白かった!」と感想をもらい嬉しく思った。(コメディ劇だったため)劇中で観客の笑い声が聞こえたことを思い返し、終幕後は「これが聞いて良かった」と心の中でガッツポーズを取ったものだ。メンバーの表現と観客の想いが詰まった舞台を学生演劇祭だけで終わらせず継続して作れたことは、サークルとして力をつけた一つの証である。

私を含め今年度活動の主導であった3年生がメインから外れ、来年度からは新たな代表を立てての活動となる。そのため私が「サークルとしての抱負」を書くのは少し違う気がするので省略させていただく。後輩には、活動を通して出た反省点を活かし、しかし今年度の活動に囚われず活動に取り組んでほしい。舞台を作り上げたあの感動を、新たな表現に触れたあのワクワクを、少しでも多く体験してほしいと願う。



大学祭公演より、終幕後の集合写真

サークル活動の再スタート

宮城大学大和キャンパスサークル連絡会代表
事業構想学群価値創造デザイン学類 2年 大坊 珠子

「サークル連絡会」とは、宮城大学のサークル・同好会の代表者によって組織されている団体で、私は大和キャンパスのサークル連絡会代表として、2022年秋から活動してきました。

代表になった当時、コロナの影響で頻繁に活動しているサークルが少なかったり、人数不足に悩んでいるサークルが多かったり、サークル活動は衰退していました。私は入学当初から娘すずめ。とソフトテニス部に入っていて、サークルや部活の仲間が大好きで活動がとても楽しく、サークル活動が衰退している状況を悲しく思っていました。コロナの影響が小さくなってきていた当時、宮城大学のサークル活動を再スタートさせるために動こうと考え始めました。

再開に成功した大きな企画は、4月に行った「新入生向けサークル紹介」です。コロナが流行してから行えずにいたサークル紹介でしたが、事務局の方や友人の協力のもと、講堂での説明会とビラ配りという新しい形で再開しました。興味を持ってくれるサークルや新入生がいるかどうか不安でしたが、参加サークルも見に来てくれた新入生も予想以上に多く、大成功だったと思います。そこでサークルに興味を持ってくれたのか、2023年度、新入生のサークル参加率がとても高く、いろい

ろなイベントや大会に参加した話をよく耳にしました。

また、新しいサークルもたくさん結成されました。私がサークル連絡会代表になってからの1年間で6つのサークルが新しく結成され、書類の作成やサークル室の分配など、サークル連絡会として結成に尽力してきました。やりたいことをできる環境に戻ってきたことをとても嬉しく思っています。

サークル活動が活発になり、それぞれの要望や意見が増えてきた今、各サークルをまとめることがサークル連絡会の次の課題だと感じています。宮城大学という小さいコミュニティだからこそ、サークル代表たちで話し合い、協力し合うことができると思います。これまでのつながりをさらに広げ、みんなでサークル活動を盛り上げていけるように、サークル連絡会代表としてできることを考えていきたいと思っています。



「新入生向けサークル紹介」説明会の様子



M. Wilsonの経験(下)

国際結婚におけるコミュニケーションの違い

基盤教育群教授 マシュー・ウィルソン

仙台で初めて妻に出会い、文化の異なる二人が、お互いにコミュニケーションを取るために努力して、もうほぼ24年が経ちました。

コミュニケーションの問題は常に起こります。最近、妻がSNSで私に車で迎えに来て欲しいかどうかを尋ねるメッセージを送ってきました。私は何かを払いのける手のGIFで返信しました。歩いて帰る準備ができていたので、彼女の迎えの必要はないという意味でした。しかし、日本では「こちらへ来て」というジェスチャーが西洋の「去って行け」というジェスチャーに似ています。そのため、妻は私が迎えに来て欲しいのだと思い、私在家まで歩いている間に大学まで車で迎えに来ました。

日本語は非常に文脈依存の言語です。話し手は時々間接的であり、聞き手が話している内容を理解していると仮定します。日本語の会話では、聞き手はコミュニケーションを成功させるために努力する必要があります。英語では逆で、その責任のほとんどは話し手にあります。日本人と結婚していると、実際に何が言われているのかを明確にするために多くの時間を費やし、その過程で妻をイライラさせることがあります。

日本語には英語よりもはるかに多くのスラングがあります。日本文化では、特定の用語やスラングを使用することにより、特定のグループやサブカルチャーへの所属感が強まります。

これは、ほぼ数ヶ月ごとに新しい語彙が登場することを意味し、夕食時の娘たち二人との会話で私の頭上を飛び越える言葉があります。

また、相槌は会話をスムーズに進めるためにも重要です。日本語では、多くの情報が非言語的な手がかりや間接的な表現を通じて伝えられます。これは私にとって普通ではなく、時には妻が怒りながら「ねえ、聞いている?」と尋ねることがあります。

国際関係は難しいように思えるかもしれませんが、実際には全ての関係にコミュニケーションの困難があります。英語の表現に「少しのプレッシャーなしにダイヤモンドは作れない」というものがあり、これは少しの逆境を乗り越えることで物事が強くなるという意味です。みなさん、お互いから学び、忍耐を持ち、関係が成長し強化されるにつれて広がる視野を楽しんでください。



一統の一枚

マシュー・ウィルソン
Matthew Wilson

南アフリカ生まれ、カナダ育ち。ヨーク大学美術学部(カナダ)、シェナンドー大学外国語英語教育学部(米国・修士)卒業。2000年に文部科学省外国語指導助手として仙台に着任し、2010年より宮城大学准教授に着任。2017年より現職

絆

No.31

「あたりまえ」という認識

在校生、卒業生、教職員など、さまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。
今春卒業する看護学群4年の太齋滯さん。コロナ禍で過ごした大学4年間の思い出をお寄せいただきました。

看護学群看護学類4年 太齋 滯

2020年4月、憧れていた大学生活のスタートを切った。入学当初から新型コロナウイルスの影響を受けた怒涛の4年間であったが、振り返ればこの4年間でしか経験できないことが多くあったと感じている。

入学時はすでにコロナ禍であり、入学式を行わないまま自宅でオンライン授業が開始された。学生を始め先生方とも直接会う機会はなく、朝起きたらパソコンと向き合う生活が長く続いていた。看護職を志す私たちにとっては、演習や実習を行うことができるのか、患者さんと上手くコミュニケーションをとることはできるのかという不安が大きかったと感じる。対面授業が開始されてからも、座席の間隔をとったり、黙食を徹底する必要があったり、制限の多さに悶々とした日々を過ごしていた。しかしこれらの経験は、今までの「あたりまえの日常」に対する認識を大きく変化させるきっかけとなり、自己管理能力の向上や新たな学びの獲得へとつながっていくことができたと考えている。

業を問近に控えた今、コロナ禍以前の大学生の日常が取り戻されたように感じている。それに伴い、私たちが日ごろから想像している「あたりまえ」という認識は、周囲の影響を受けて変わりゆくものなのであると実感した。

コロナ禍という状況下でも看護学を継続して学ぶことができたのは、先生方を始め周囲の方々が学修環境を整えてくださったことや、友人・家族の協力も得ながら自分と周りを守る意識をもっていたことによる影響が大きいのと感じている。想像していたような大学生活ではなかったが、「あたりまえ」に学び、楽しむことの大切さをより強く実感することができた4年間だった。今後、1つ1つの意識の積み重ねを大切にしていきたい。

これまで私は大学生活に対して、サークル活動やアルバイトを通して他者との交流を楽しみつつ勉学に励むというイメージを抱いていた。しかし先述の通り大学生活の大半は制限が多く、卒



教員からの一言

東北と世界をつなぐ輸出流通支援

食産業学群准教授 兼田 朋子

宮城大学に着任し、もうすぐ丸2年、今年度は初の卒業生を送り出す予定です。本学に着任し、半年ほどは、講義をこなし、大学のシステムになれることに精一杯でしたが、初秋ごろからようやく研究環境の整備に取り掛かりました。



輸出用蔵王梨の品質調査

私の専門は「青果物保蔵学」で、青果物の流通中や貯蔵中に発生するフードロス削減のための品質保持に関する技術開発や流通環境改善に取り組んでいます。この10年ほどは船による輸出流通支援に関する研究に携わる機会が多く、実験室での試験に加え、実現場での実証試験も数多くこなしてきました。これらの研究成果を、宮城県をはじめとした東北地域で展開していくにあたり、まずは実験室の整備と並行し、実証試験のパートナーを探す必要がありました。なにもかもゼロの状態からのスタートでした。

そこで真っ先に宮城県庁に飛び込みました。私の前職は徳島県職員で、複雑な調整が必要な輸出研究を行うには、県庁の輸出担当部署にその必要性を説き、研究パートナーと実証の場を用意してもらうのが一番手取り早い、と経験的に知っていたためです。結果、突然の飛び込み営業にも関わらず、全農や、輸出事業に積極的に取り組んでいる企業につないでもらうことができました。そして、わずか3か月後の冬には、県産イチゴの香港向け海上輸出事業（輸送期間16日間）を品質保持の技術面からお手伝いさせていただき、宮城県初の青果物海上輸出成功事例を立ち上げました。さらに2年目の夏には、地域間連携を意識した宮城県産蔵王ナシと山形県産シャインマスカットのシンガポール向け混載海上輸出（輸送期間16日間）にもチャレンジし、同様に成功を収めました。いずれの輸出試験も、多くのマスコミや、官公庁、企業に関心を持っていただき、「宮城大学」の名と共に、それらの取り組みや成果を県内外の皆様にも広く知っていただくことができました。今後はさらに連携範囲を広げ、東北地域全体の青果物を取りまとめた海上輸出支援に携わることを目標としています。「東北の輸出といえば宮城大学」と認識してもらえるよう、努力を重ねてまいります。

あと数か月で、本学着任3年目に入ります。そろそろ初心者マークは外し、これまで以上に力強く、教育・研究に取り組むことで、地域、そして世界の役に立つ人材や研究成果を社会に送り出していきたいと思います。後援会の皆様には、今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

編集後記

記念事業検討委員会が手掛けたページはいかがでしたか。月日が経っても変わらず続けてきた後援会事業や時代に沿って変化していく大学の施設、学生の日常などをご紹介できたのではないのでしょうか。そして次号では学生がデザインしたラッピングバスを紹介する予定です。

過去の会報誌はこちらから <https://www.myu.ac.jp/campus/support/> ご覧になれます。

後援会からのお知らせ

令和6年度 総会のご案内

令和6年度後援会総会を開催いたします。議題は令和5年度事業報告・決算と令和6年度事業計画・予算案などです。会員の皆さまはご出席くださいますようお願いいたします。（※詳しくは同封の総会案内文をご覧ください。）

役員の募集

後援会では学生・大学・会員のために後援会運営に携わってくださる方を募集しています。父母・保証人の方で、ご興味のある方は後援会事務局までご連絡ください。

後援会事務局 ☎ 022 (377) 8381 myu_kouenkai@myu.ac.jp

終身会員制度のご案内

後援会では学生の卒業後も加入を継続できる終身会員制度を設けています。

終身会員は学生と大学に対して更なる充実した支援で物心両面から支える活動に賛同された卒業生の父母・保証人様の希望によりご加入いただくもので、これまで多くの方々に入会いただいております。

入会後は20年間「会報による後援会活動の報告」「主催事業のご案内」を差し上げます。

令和5年度ご卒業を予定されている学生の父母・保証人の皆様には、改めてご案内いたします。何卒、制度の趣旨をご理解いただき多くの方にご賛同いただきますようお願いいたします。

令和6年度 主催事業

会員を対象とする「MYUサポーターズデイ」「講演会」を令和6年度も開催予定です。日時などが決まりましたらご案内いたします。

大学からのお知らせ

令和5年度 宮城大学卒業証書・学位記授与式

令和5年度宮城大学卒業証書・学位記授与式は、以下の日で開催いたします。

当日の式典の様子は、インターネットで配信するほか、スマートフォンを用いたAR記念撮影コンテンツも用意する予定です。

詳細は、卒業生宛てに学内メールにてお知らせしております。

なお、今後の状況によっては、式典の実施方法等を変更する場合があります。

開催日程 ●日時：令和6年3月19日（火）

10:00～11:00（予定）

●場所：宮城大学大和キャンパス講堂

お問い合わせ先	大和キャンパス (看護・事業構想)	太白キャンパス (食産業)
教務関係【カリキュラム・シラバス等】	kyoumu@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
学生生活関係	gakusei@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
キャリア開発室【就職関係】	careerdev@myu.ac.jp	f-career@myu.ac.jp
後援会事務局	myu_kouenkai@myu.ac.jp	

お問い合わせの際は、ご子女の「お名前」「所属学群」「学籍番号」もあわせてお知らせください。

